

# 肯定感を培う子供の学び

岡山白ゆり発達支援センター 石原 忍 先生

## 第一部 学びを通して培う子供のアイデンティティー

### ① 子供の成長と幸せを支える

子供の幸せと自己実現を達成するには、一人の自立した人間として自分が他者へ貢献できること、家族や友達や社会から必要とされている実感の持てる事、どんな子でも役割がある。

人から必要とされると実感する手段として自己肯定感を持ったコミュニケーション力の育成を強く言われました。

### ② 子供は、集団の中で育つ

脳の血流は、全ての人間（大人も子供も）量が同じだそうです。重要な脳に大脳辺縁系があります。そこには、人間の欲求（食欲、睡眠欲、子孫繁栄の欲）さらに集団所属欲求というものも必ず持っているそうです。その血流の量の偏りがある人たちが発達障害と言われる人たちではないか。

言語・聴覚・視覚、特に優れている感覚をメインにして生活していけば苦手も克服できると言われました。

### ③ 対局する二つの視点

- ・テクニカル（技術的）
- ・ファンダメンタル（基本的、根本的）

この二つのバランスが、とれた子育てを親は、希望するが、偏りがちな子供たちには、互いの機能を補い合い分担していくことが必要だとおっしゃられていました。

## 第二部 個別指導場面での実践テクニック

### ① 学習支援の原理

#### A スモールステップ法

文字通り少しずつ課題を進めて身に付けていく方法。しかし、子供自身が膨大な課題に耐えられない場合もあるそうです。

#### B 支援除去法

例えば、自転車を一人で漕げるようになるまで色々な器具であったり手を添えたりしますが、少しずつ補助をはずしていくうちに漕げる様になるのと同じで、たくさんの学習の支援を身に付いた段階で排除していく方法。

#### C 多感覚刺激

色々な視点からアプローチしていく方法。例えば繰り上がりの計算は、苦手だが分数は得意で分数の計算をこなしていくうちに繰り上がりを理解しているという子供もいたそうです。何かの瞬間にひらめき脳のスナップがつながることがある。

なによりも、子供が知りたい、やりたいという気持ち（内発性）が、一番の体得する

方法だとおっしゃられていました。

② 学習支援の実際（読む、書く、計算する）

物語文などを読んでもイメージ出来にくく理解ができない子も、少しずつの文章をスモールステップで、一緒に読み考えることにより聞ける子に、読める子になっていく。

形が整った字を書けない子は、マス目に書くとき辛かったりもします。まず大きく書き四つに区切るなどして空間を知らせることにより字が頭に入りやすくなるそうです。

図形が、苦手な子は色による支援が効果的だそうです。三角形の面積を計算するとき、底辺×高さ÷2ですが、底辺を赤に、高さを青に線に色を加えるだけで分かり易くなるそうです。

そして繰り返すことにより本人の身についたなら色なしで挑戦してみる（支援除去法）色は、感性に訴える第二の言語だそうです。

### 第三部 支援者とのパートナーシップ

① 支援者としての願い

「自分の苦手な部分を受け入れたうえで自分自身のことをまんざらではないと思う気持ち」苦手があるから「らしさ」が生きる、苦手なことを認め補うことで凸凹がいいところも一緒になり、なだらかに丸くなっていくのだとおっしゃっていました。

② 家族とともに歩む

家族は、生涯にわたって子供と共に生き、決して切れることのない関係であるのだからありのままの感情を持てるやすらぎの空間でなくては、いけない。

そして支援者は、複数年にわたる継続性と専門性を持ち、特性を理解しその子の内発性を引き出せるオーダーメイドの学びを提供する存在である。もちろん心のよりどころとなる存在であることも大切だといわれました。

#### 所感

先生は、一生懸命頑張るから困難は、次々来る。それを嘆かず腹をくくり立ち向かう事が奇跡へのスタートになると言われました。その言葉が一番、私は、勇気づけられました。

子供が自分自身を肯定することで内発性が生まれ自己実現していくのだと信じ親子共々成長できればと思う講演会でした。

(菊)



講演会の様子